

李孝真，廉恵晶

(全北大)

新しいミレニアムを迎え、各国は世界化の中でより普遍的な生活様式になっている。特に服飾は、‘世界に通用するメッシンジャー’の役割を目指す傾向を強めている中、欧米中心の思考から離れ、各民族の情緒を西洋服飾に再現する動きが、世界化の時代におけるファッション哲学になっている。そのため、最近のファッションにアフリカやアジア風の要素が多く見られる一方、各国伝統の工芸技法などを応用したエスニック・ファッションが、絶えずファッションの中心を形成してきた。

過去数十年におけるファッションの流れを考察して見ると、日本デザイナーたちが世界に進出し成功をおさめたのは、韓国ファッション・デザイナーたちにとってたいへん肯定的刺激になっただけでなく、無限な可能性をもつ世界を開いてくれるきっかけにもなった。従ってこれから‘韓国の美’を世界化するためには、創造的で現代的なファッション・デザインの開発により関心を持ち、伝統美を活用する研究姿勢が必要であると思われる。

本研究は、韓国伝統のパッチワークを題材にし、その伝統的技法が、どのように西洋服飾に表現されているのかを考察することにより、韓国の文化的伝統やそのアイデアを採り入れたファッション・デザインを開発するための土台になることを目的にしている。

研究方法としては、韓国の伝統美やパッチワークに関する国内外の単行本や刊行物、学位論文などを参考に理論的考察をした後、実際にファッション雑誌やビデオ、インターネットなどでその対象となるデザインを選別し、分析を行うつもりである。